

教 育 研 究 業 績

2021年5月1日

氏名：阿部 宏徳

学位：博士（心理学）

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
臨床心理学 心理アセスメント	臨床心理学, 人格心理学, 心理アセスメント, EMDR	
主要担当授業科目	心理的アセスメントⅠ・Ⅱ, 感情・人格心理学 (学部) 臨床心理査定演習, 臨床心理面接特論 (大学院)	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1. 教育方法の実践例		
①心理的アセスメントⅠ・Ⅱ	平成 23 年 4 月 ～現在	臨床心理学に関して, クライエントの状態・人格などを捉えるための心理アセスメント法に関する理論と実際について講義を行った。(旧: 臨床心理査定法)
②感情・人格心理学	平成 26 年 4 月 ～現在	「人格とは何か」を問う, 人格に関する著名な理論から始まり, 近年の新しい知見について扱うなど, 幅広い内容のパーソナリティ心理学に関する講義を行った。(旧: パーソナリティ心理学)
③臨床心理学演習	平成 23 年 4 月 ～現在	卒業研究・卒業論文作成に向けて, 心理学研究の基礎から実際までを体験させ, その知識・技能を身に付けるための講義を行った。
④卒業研究・卒業論文	平成 23 年 4 月 ～現在	4年間の集大成となる, 卒業研究・卒業論文作成のための指導を行った。
⑤臨床心理査定演習	平成 23 年 4 月 ～現在	臨床心理学的査定業務において必要な知識や実施法, 所見の書き方など, 実践的な内容を大学院生に対して講義を行った。
⑥臨床心理面接特論	平成 26 年 4 月 ～現在	臨床心理学的面接におけるクライエントへのセラピストの関わり行動を, 初回面接を題材として, 体験的な講義を行った。
⑦修士論文指導	平成 23 年 4 月 ～現在	修士論文の作成のための指導を行った。
2. 作成した教科書・教材 特になし		
3. 当該教員の教育上の実績に関する 大学等の評価		
①学生による授業評価	平成 23 年～現 在	学生による授業評価アンケートで多くの講義で平均値よりも高い評価を受けた。
②指導学生の優秀論文賞受賞	平成 28 年	主査として修士論文の指導を行っていた大学院生が投稿した紀要論文が優秀論文賞として評価された。
4. 実務の経験を有する者についての 特記事項 特になし		
5. その他 特になし		

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1.資格、免許 公認心理師	平成 31 年 2 月	
臨床心理士	平成 19 年 4 月	(財) 日本臨床心理士資格認定協会 臨床心理士 取得 16959 号
2.特許 特になし		
3. 実務の経験を有する者についての 特記事項 ①心理士としての実践・勤務	平成 21～現在	大学院附属の心理相談室の相談員として、大学院生の臨床心理学的面接や査定に関して大学院生に指導を行っている。
4. その他 合同会社学幸社 代表社員	平成 28 年 3 月 ～現在	これまでの研究知見や技能を活用するため、東京成徳大学学内ベンチャーとして合同会社(学幸社)を設立し、代表社員として運営に当たっている。

著書、学術論文等の名称	単著 共著 の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等又は 発表学会等の名称	概要
(学術論文) 1. インクプロット把握 における色彩の重要性 — 色から見た把握型	単著	2005 年	ロールシャッハ法研 究, 9, 15-24	ロ・テストの把握型で重視されてこ なかつた色彩領域をそのまま用いること に心理学的意味があることを示し, 色 彩の重要性を示唆した。
2. 強制的色彩反応と感情 制御の困難さとの関係	共著	2006 年	ロールシャッハ法研 究, 10, 45-52	強制的色彩反応は感情表出の不自然さ や過剰適応と関連があるとされてきた 仮説を初めて実証的に確認した。
3. ロールシャッハ変数・ BVAQ-J との相関から見 出される色彩領域への アプローチによって分 けられる部分反応の特 徴	共著	2006 年	筑波大学心理学研究, 32, 83-90	これまで“色彩≒感情”と見なされて きたことから, 色彩領域へのアプロ ーチに注目すれば把握型変数でも被験 者の感情機能に関する情報を捉えられ ると考え, そのアプローチとアレキシ ミア間の関係を調べた。
4. ロールシャッハ・テ ストの把握型システムに 関する一考察 — 色彩領域に対する反 応形式に基づいた分類 法の提案	単著	2009 年	筑波大学博士論文	創案者 H.Rorschach 以来, 根本的な 修正がなされてこなかつたロールシャ ッハ・テストの把握型システムに関 する新しい方法を提案し, 新しい方法 の有効性を示した。

5. 視空間的ワーキングメモリ推定における組織化された良質な全体反応の有効性	共著	2011年	心理臨床学研究, 29 , 109-113	ロールシャッハ・テストにおいて、質の高い反応とされてきた組織化された全体反応と近年重視されている視空間的ワーキングメモリ間の関連を示した。
6. ジュニアサッカー選手における親のいきすぎた支援を引き起こす要因の研究	共著	2014年	東京成徳大学臨床心理学研究, 14 , 72-81	学校の部活やクラブチームでサッカーを行っている中学生を持つ親が子供に対して過剰な支援にはどのようなものがあるかについて指導者に対して調査した。その結果、3因子が抽出され、指導者から見たいきすぎた支援の構造が明らかとなった。
7. 臨床心理学専攻大学院生における自己理解の深まりに関する研究	共著	2014年	東京成徳大学臨床心理学研究, 14 , 82-89	臨床心理学専攻の大学院生の経時的な自己理解の深まりについて調査を行った。その結果、臨床心理学専攻の大学院生は理科系の研究科に所属する大学院生より頻繁に内省を行っていること、(協力者の少なさから有意とはならなかったが、) 学年・在学期間の増加とともに自分自身へ意識が向きやすい可能性が示唆された。
8. 酪農教育ファーム活動の教育的効果に関する研究—小学生の思いやりと攻撃性に着目して—	共著	2014年	平成 25 年度酪農教育ファーム調査研究	小学生に対する酪農業務に関する実習体験の影響について、特に思いやりの促進などに焦点を当てて研究を行った。その結果、酪農実習体験が児童らの他者への思いやりを高めることが示唆された。
9. Cognitive Behavioral Therapy as the Basis for Preventive Intervention in a Sleep Health Program: A Quasi-Experimental Study of E-Mail Newsletters to College Students	共著	2015年	<i>Open Journal of Medical Psychology</i> , 4 , 9-16	大学生の睡眠の質の低さに対して認知行動療法による介入を 53 名の大学生に行った結果、16 週間においても睡眠の質や抑うつに関する尺度得点が有意に低いことが確かめられ、その有効性や高い費用対効果が示唆された。
10. ふわふわした触感覚が情動に及ぼす影響 1—性別に焦点を当てて—	共著	2017年	東京成徳大学臨床心理学研究	ふわふわしたものに触るという行為が不安を軽減することは知られているが、そこに猫動画の視聴を加えることによって、男性はより「再度試してみたい」という気持ちが高まることが示された。
11. ふわふわした触感覚が情動に及ぼす影響 2—性格特性による影響—	共著	2017年	東京成徳大学臨床心理学研究	上記に加え、性格特性からの検討を行い、感情を自覚しにくい人は猫動画視聴を加えることで心理的安寧がより高まることが示された。

12. ポジティブな夢と睡眠の質との関連	共著	2018年	東京成徳大学臨床心理学研究	研究があまりなされていないポジティブな夢の生起要因について調査したところ、感情調節の再評価方略が要因として見出され、この結果はネガティブな夢の要因とは大きく異なっている可能性が示された。
13. 大学講義におけるリアルタイムアンケートの有効性—受講意欲や理解の促進に注目して—	単著	2019年	東京成徳大学臨床心理学研究 (印刷中)	アクティブラーニングの一手法であるリアルタイムアンケートの有効性について調査した研究。リアルタイム性は講義への受講意欲や理解の促進に関して有効であることが示された。
14. 接触イメージが気分 に及ぼす影響	共著	2019年	東京成徳大学臨床心理学研究 (印刷中)	「他者に触れられることで不安が軽減する」という研究が多い中、イメージするだけでも効果があるかなどについて調査した研究。先行研究やその示唆を確認した他、不安以外の感情において新しい知見・可能性が得られた。
15. モノへのアタッチメントの有無とアタッチメントスタイルの関連—接触する物体対象の種類が及ぼす心理状態への影響—	共著	2019年	東京成徳大学臨床心理学研究 (印刷中)	対人的なアタッチメントだけでなく、物体に対するアタッチメントやその性質について調査した研究。アタッチメントスタイルはモノへの愛着の有無に関連があり、見捨てられ不安傾向が高い人はモノへの愛着が見られるが、親密性の回避傾向が高い人はモノへの愛着が見られないことが示唆された。
(その他)				
1. 外来患者に対するグループ回想法の試み	共著	2002年	日本痴呆ケア学会第3回大会発表論文集, 97	グループ回想法によって認知症の進行が緩和されることを確認した。
2. 各色彩部分を反応領域の基礎単位と捉えるための実験的研究	単著	2003年	日本ロールシャッハ学会第7回大会発表論文集, 46-47	把握型を色彩領域に基づいて分類する方法を初めて示唆した。
3. 色から見た把握型とアレキシサイミア要因との関係	共著	2005年	日本ロールシャッハ学会第9回大会発表論文集, 30-31	上記の考え方と従来の「色彩=感情」という考え方から、その関連について調査・検討した。
4. 自由反応段階における紙面(全体)反応とOutside Sの共通性	共著	2006年	日本ロールシャッハ学会第10回大会発表論文集, 46-47	上記の考え方を応用し、紙面を示唆する反応と色彩領域外の空白領域間の関連を示唆した。
5. 自己信頼群が多く出ずCutD型Dd—基準統合による予測力向上	単著	2007年	日本ロールシャッハ学会第11回大会発表論文集, 53	上記の考え方と既存の分類法の組み合わせによって自己への信頼が高い群の弁別率が向上したことを報告。

6. RAPID	単著	2010年	http://www.qreap.com または Android Market	Android上で動作するロールシャッハ・テストの集計・データベースアプリケーション。
7. 自尊心IAT指標の算出法と Stroop 効果間との関係	単著	2010年	日本パーソナリティ心理学会第19回大会発表論文集, 3.	指標の算出法によって抑制機能が IAT の結果に影響を与える可能性があることを示した。
8. Android 上で動作する Rorschach 集計・データベースアプリケーションの作成	単著	2010年	日本ロールシャッハ学会第14回大会発表論文集.	上記(6の RAPID)を作成したことを報告するという内容。
9. Eye Movement Inductor for Android	単著	2014年	Google Play	EMDR など眼球運動を用いた臨床実践や研究に利用するための Android アプリケーション。
10. Eye Movement Inductor		2016年	学幸社	EMDR など眼球運動を用いた臨床実践や研究に利用するためのハードウェアおよびソフトウェア。
11. Active Communication in Lectures		2018年	学幸社	アクティブラーニングの一手法であるリアルタイムアンケートを実施するための Web アプリケーション。